



医療法人昭生病院（病院紹介）

大久保, 正明

(Citation)

神戸大学医学部神緑会学術誌, 2:107-108

(Issue Date)

1986-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81007032>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007032>

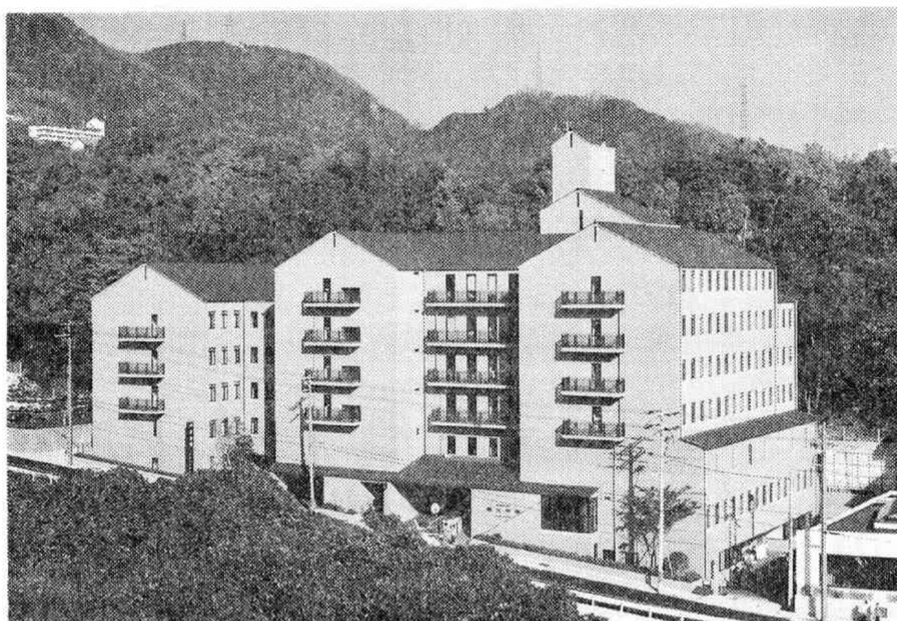


病院紹介—

医療
法人

昭 生 病 院

本 院 〒657 神戸灘区鶴甲3丁目13-9
☎(078)881-5500 (代)
附属診療所 〒651 神戸市中央区上筒井通5-1-16
☎(078)241-3824 (代)



「病気か病人か」

昨今ほど医療に関する問題が山積した時代があったでしょうか。近代技術を駆使した医療が益々進歩するにつれて、人間不在の医療といわれて久しくなります。このことは患者が医療従事者に患者の人権を押し付けて、患者が医療従事者の人権を認めようとしながために起こりうる発言と思われてなりません。患者の人権、医者の人権共に相互作用するものと思います。しかし人権という言葉には、どこか刺があるように思われます。このように人間不在の医療といわれる所以は双方に何かが欠けているからでしょう。19世紀にフィリップ・ビネルという人が「今の医者どもは病人、病人といっているが、病気のことは何も知らない。」、約80年後にはどうでしょう、ヘルマン・ノートナーゲルという人は「医者は病気を治すのではなくて病人を治せ。」といっています。この二人の意見の相違は、その間における自然科学の急速な発達に伴い、医学が人間不在の修理屋へと変身したためだと解される一方、本当は両者の意見の相違はないのだとする解釈もあります。現在、益々自然科学の発達は著しく、近代医療のもつ体質的欠陥が次から次へと出ているようです。今のマスコミは鬼の首でも取った如

く、嬉々として医療事故をはじめとして種々の医療問題を一般の市民に知らせることで肥った怪物です。病気を治すのではなくて、病人を治すのだという意味深い言葉は何処でも何時でもきかれる言葉ですが、今まで以上に突っ込んだ解決方法を模索すべき時だと思います。

病人、病める人、人間という言葉自体があやしいのです。生物一般と人間という生物の同一性と差異性の問題が要点と思われます。人間の独自性という問題が絡んできますと、そこには医療と法、あるいは人権の絡み合いがあります。人権意識の強い折りから（ごて得の時代）知る権利、選択の権利、拒否する権利等、権利、権利を主張する時代です。

近代医療においては、量質両面から考えて、合理的医療が最も直接的に対応でき、疾患中心主義の色合いが鮮明となっています。近代科学の進歩に伴って疾病を客観化し、抽象化し、数量化した各々のパラメータで構成し、それらを解析し適応するには分業化、中央化せざる得ぬようです。即ち、近代医療においては人権を構成する種々の側面と対極関係にあります。客観化されると人間は人間でありえないし、抽象性に対しては具体性が人間の存在様式です。また人間は数量的に扱われるのを好

みません。合理的医療を拡大すればするほど非人間的になり人権軽視と受け取られる事態が顕著になります。このような矛盾した事態を解決するには、医療の大きな部分に人間的側面があるということではないでしょうか。技術的合理的医療を補うものは人間科学的知識じゃないかと思います。

病人は客体ではなくて病める主体です。と同時に医療従事者も主体として相互作用をしています。医者には患者の人権を押しつけるなら、患者にも医者の人権を認めさせねばなりません。

何だか医者と患者の口喧嘩になってしまいました。やはり昔から言われている如く相互の信頼関係が一番でしょうか。

我々はいつまで、この貧困な医療政策の下で馬鹿げたマスコミの怪物の目を気にしながら細々と医療に従事せねばならぬのでしょうか。病める医療政策は一体誰が治してくれるのでしょうか。どうも放置されているばかりか冷遇されているように思えてなりません。病める人は微力ながらも我々が、(少々気負いすぎか?)では、病める医療対策は誰が診るのでしょうか。誰も診てくれそうにありません。大医は国を治すといひます。我々は病気を治す小医でもだめで、病人を治す中医でもだめで、やはり国を治す大医とならないとこの世は終わりのようです。

この貧困なる医療行政の下で我々、昭生病院のスタッ

フは頑張っています。今年度の目標はナースの教育に重点を置いています。

「まさかの時には団結を、さしせまらぬ時には自由を、いついかなる時にも愛を。」この言葉をかみしめて冬の時代を乗り切ろうとしています。

昭和58年12月開院と同時に兵庫県立がんセンターより奥野武彦先生、昭和59年5月より同センターの島勲先生を迎え入れ、更には神大第一内科より最近の循環器の技を身に付けた若き、熊本知行先生等、新しいスタッフが参加して頑張っています。

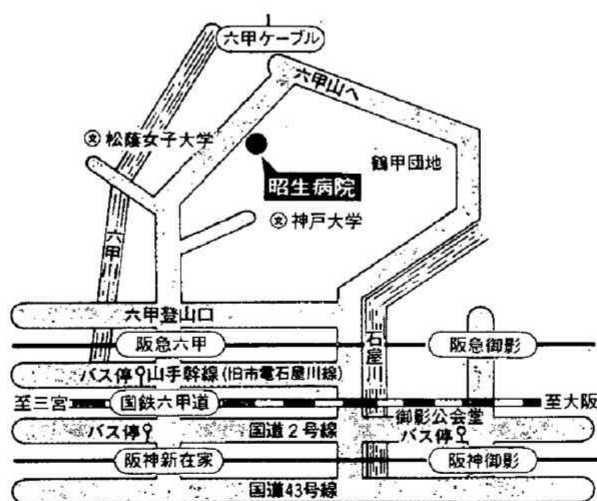
医療法人昭生病院スタッフ (神緑会関係)

戸山 祥三 (S27年卒)	神緑会
岡本 好司 (S31年卒)	〃
和田 昇 (S38年卒)	〃
奥野 武彦 (S39年卒)	〃
大久保正明 (S39年卒)	〃
島 勲 (S43年卒)	〃
山村 洋代 (S48年卒)	
熊本 知行 (S52年卒)	〃

<診療科目>

循環器科、呼吸器科、消化器科、放射線科ほか
ベッド数 130床

(昭和61年3月 大久保 正明)



市バス⑩系統六甲ケーブル下駅下車南へ500m